



小木直江津航路、いま
生かせずどうする！

渡邊 隆（久比岐野）



Q 「佐渡島の金山」世界遺産登録効果が持続する間が広域観光連携で当市をPRする重要な時期である。安定航路確保に向けて、観光誘客実績も踏まえ、新造船を要求すべきではないか。

A 運航の安定化は長年の重要な課題である。船舶の更新検討に当たり、関係自治体と連携し、事業者や国に働き掛けていく。

高田城址公園を含む周辺地域の課題解決を

Q 都市計画道路「北城町東城町線」と「高田駅北城町線」が交わる未整備箇所の整備は。

A 歩道がなく見通しが悪いことは認識しているが、道路整備計画に基づき慎重に判断する。

Q 上越地域振興局前交差点は、通学の安全性確保や渋滞緩和のため、改良が必要ではないか。

A 交通の円滑化や安全性の向上が期待できる。県が進めている無電柱化事業に合わせ検討する。

Q 公園南側広場を分断する市道の切り替えは、史跡上に道路構造物を認めないとする県の見解で断念した経緯があるが、全国では認められている事例もあるため、研究すべきではないか。

A 改めて全国事例を研究する。

Q 極楽橋の損傷が多いが、危険はないのか。

A 敷板や高欄は危険な状態ではないが、耐用年数などから全面改修の時期にある。国庫補助事業等の活用による財源確保に取り組んでいく。



安心して出産できる
環境づくりを

西沢 智子（公明党）



Q 陣痛時、家族等による送迎が困難な妊婦の移動手段について、タクシー事業者と連携し、夜間・早朝を含め、妊婦が安心して医療機関へ移動できる体制づくりを進める考えはないか。

A 県は令和8年度「こむすび出産応援タクシー事業」を創設した。これは事前に妊婦の状況や出産予定日、分娩予定の医療機関等の情報をタクシー事業者に登録し、陣痛時、妊婦がタクシーを利用して速やかに医療機関へ移動できる支援制度である。市としては、県が実施する研修会に参加して情報収集するとともに、市内のタクシー事業者や関係機関と意見交換を始めた。

食品ロス削減とフードバンク活動の充実を

Q 市民へのフードバンク活動の周知と未利用食品の寄付をさらに促すため、市役所や公共施設に受付場所を設け、市民が身近な場所で気軽に寄付できる環境を整える考えはないか。

A 食品を持ち寄りやすい環境を整える上で、保管場所の確保や配送に至るまでの一連の業務体制の整備が必要である。市役所や公共施設に限定するのではなく、市民の皆さんにより身近で、地域に根ざした民間のネットワークの中でフードバンクを通じて必要とされる方のもとに食品が届くよう、食品を車で集めるフードドライブの活動を促進していく。



若者のチャレンジを支え、まちの活性化に

伊崎 博幸（参政党）



Q 上越市地方創生若者重点補助金を利用しやすいよう、改善してはどうか。

A 若者の挑戦を後押しするという制度本来の目的に沿い、必要な制度の改善を検討する。

Q 若者交流機会の創出事業の進捗はどうか。

A 令和2年度から若者同士の交流や意見交換の場づくりに取り組んでおり、令和6年度からは「ミートアップイベント」として気軽に交流できる場を設けている。若者同士のつながりや交流を生み出す場として、手応えを感じている。

Q 愛知県新城市が取り組んでいる「若者議会」は若者の地域参画を促し、好循環が生まれている。このような取組を導入してはどうか。

A 若者の参画の手法については、検討していきたい。

訴求力の高い情報発信について

Q 市の公式インスタグラムを開設し、ショート動画を中心とした広報に力を入れてはどうか。

A 市政情報全般を発信する総合的なインスタグラムは開設していないが、分野別に26のアカウントを運用している。

Q 公式LINEの登録者数増に向け、様々なサービスを利用するための登録カードの持参が不要となるデジタル会員証を活用してはどうか。

A 具体的な活用について検討している。